

「企業と人の幸せは、安全あってこそ」。徹底した指導教育と情報の共有化によって高められる社内の安全意識と技術力。

株式会社サンコー（曾於支部）

日々の綿密な記録と相談・報告・連絡とトップによる専門知識の研修など、きめこまやかなバックアップによって「人財」を育成し、社会へ貢献する。



代表取締役会長 渡辺紘起さん 代表取締役社長 木村増雄さん

株式会社サンコー

本社／志布志市有明町伊崎田5013
代表取締役会長／渡辺紘起
代表取締役社長／木村増雄
従業員数／85名
保有車両／34台



平成6年、渡辺組のグループ企業（岩川生コンクリート、大崎コンクリート、共栄開発）が合併し株式会社サンコーが誕生。さらに平成17年4月より有明運輸倉庫を吸収合併し、志布志市有明町の本社を中心に、大崎、末吉、岩川の3工場と志布志に1事業所を展開している。主な輸送品目はセメント、生コンクリートなどで、その他にもでんぷん、飼料、肥料、その他の一般貨物などを取り扱っている。

渡辺グループの企業理念は「幸福追求～よりよい人生を生きる～」。物質的、また精神的な幸福をめざして「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに事業に取り組んでいる。また地元では苦学生をはじめとする青少年育成を支援し、中国の寒村に学校を創設するなど社会貢献に心を砕いてきた創業者・渡辺信雄氏の「奉仕の精神」はいまグループに引き継がれ、奉仕活動も活発に行われている。「日常

の営利活動をしっかりやることも社会貢献ですが、なにかボランティア的なことを通して、少しでも社会のお役にたてたら」と渡辺紘起会長。サンコーの活動としては、毎朝の道路清掃や花壇の手入れなどの「さわやか運動」や地域福祉への寄付などがある。

サンコーの木村増雄社長は「社内での幸福追求の第一歩は、預かった従業員を自宅に無事に帰すこと」として安全教育にとりわけ力を注いでいる。木村社長自身、かつてドライバー経験を積んだ大型二種免許保持者ということもあり、運転のプロとして新入社員・中途採用者教育、乗務員安全指導教育のほか社内安全大会など、あらゆる機会を捉えて社員へのきめ細かな指導を行っている。現場へ出向き、外部関係者を交えての指導を実施することもある。「事故が起こってからでは遅い。クルマやタイヤの構造や安全な操作法、交通

ルール、高速道路での安全走行や休息の取り方、道を歩く高齢者や子どもの特性など、運転する者はあらゆることを頭に入れておくことが必要です」。

同社では乗務員各自による走行距離と使用燃料量、燃費、修繕費用など日報記録が36年も前から続けられている。前年や先月との比較がひと目で分かることから、各自が自発的に走行を改善していく動機になっているという。このほか、ミスを完全に撲滅しようという「ゼロデフェクト（ZD）運動」、社員自らが自主的に改善目標し、自主統制によって改善を推進する「JK運動」、ヒヤリ、ハットとした場面の記録を全社員で共有して事故を予防する「ヒヤリ・ハット運動」などをはじめ、さまざまな角度から安全管理への取り組みが行われている。安全に走ることが、省エネ、省燃費走行への近道でもあるのである。平成

19年度の県ト協主催ベストエコドライブコンテスト10tダンプ部門において、同社の中吉正美さんが優勝、假水一美さんが入賞という成績をあげた。これも付け焼き刃ではない日頃の精進の成果である。

「人は「人材」ではなく「人財」と木村社長は強調する。きびしい指導に耐えられない社員は去っていくこともあるが、きびしい安全管理は裏返すと、働く人とその家族を守り、会社を存続させるための要諦である。研修を受けた社員たちの感想文には、感謝と意欲がにじみ出ており、会社への信頼感をうかがわせる。渡辺紘起会長は「責任感があって誠実、事業にはシビア。ありがたい存在です」と木村社長の手腕を評価する。今後の目標は、技術やノウハウを持った若い世代の人財を積極的に登用し、さらにやりがいのある会社づくりだと木村社長は語る。



定期的に安全研修や自動車学校での研修会を行い、ドライバー育成を積極的に行っている。また社長自ら研修資料を作成されている。



サンコーの車両。停車中のトラックにはすべて車輪止めをする等、安全対策が徹底されている。

本社事務所